

一年間お世話になりました

監事 鈴木 剛 (53期)



本コラムは、「監事室から」というタイトルですが、実は「監事室」という部屋はありません。弁護士会館6階外れの「ミーティングルーム」が監事室なのです。監事室は、弁護士会の荷物置き場も兼ねており（?）、ダンボールを持った職員の方が時折出入りするのどかな部屋で、会館内の喧騒が届かない静かな空間で、侘び寂びの心境に達することができます。

次に、私たち役員任期は3月までなのですが、監事には任期終了後も仕事があります。それは、翌年度の定期総会に提出する「監事意見書」作りです。そこで、本コラムでは1年間の御礼を述べつつも、実はここからが私たち監事2名の正念場となるのです。

さて、会の持続可能性の観点から、支出の抑制、財務状況の改善が欠かせません。この点で悩ましいものの一つがOA関連費用の支出でしょう。

昨年度は約1億円の支出がありました。監事意見書では、サーバ更新費用とベンダーロックイン（特定業者への依存）問題が指摘されています。

しかし、クラウド、オンプレミス（物理サーバ）双方に長所・短所があります。また、業者に依存しないということは会自身にシステム管理の専門的知見が必要となるかも知れません。

支出削減の面からも、セキュリティの面からも、慎重な検討が求められると思います。

刺激的です

監事 西川 一八 (54期)



昨今、当会では財政健全化が重要なテーマとなっており、これまでの関係者全員の努力により、全会員の会費2000円減額が昨年12月から実施されました。本年度においても、財政健全化については理事者全員が意識をしており、理事者会では、予算執行に際し、積極的な会務活動の実現と支出の緊縮とのバランスについて、時には神経質ともいえるほどに、注意を払った議論がなされています。それでも、今後も会館設備、IT関連への支出などが必要となり、財政健全化に向けた取り組みを継続する必要があります。

お話が変わりますが、これまで私は、町弁というか訴訟弁護士というか、個人や中小企業の社長さんとお付き合いが中心でした。ガチガチの企業法務には縁がなく、組織運営にはほとんど経験がありませんでした。しかし、当会は約9000人の会員が所属し、140人以上の職員が勤務する

規模の大きな組織です。稟議や決裁、理事者会の進行、常議員会の運営、それぞれの場面でなされる議論など、初めて接する事柄が多く、非常な刺激を受けています。その過程で垣間見える理事者の皆さんの人間臭さといったものにも、同様に刺激を受けています。

この記事を書いているのは1月でして、昨年4月の監事就任から、既に9ヶ月以上が過ぎており、一方では、早いものだと感じています。が、他方では、現在、財務担当の吉田副会長を中心に、来年度の予算編成のまっただ中でして、さらにはこれから年度末の決算を控え、監事意見書の作成という重大な任務があります。監事のお仕事はこれからが本番という側面もあり、職務をまっとうできるように、気合いを入れ直しています。